

令和4年度一般会計予算 (前年比+51.5億円) 歳出 327億619万4千円

【歳入】

- ・市税 128億7696万9千円
市民税 50.5億 (個人 36.5億・法人 14億)
固定資産税 63.5億・都市計画税 6.6億
軽自動車税 2.2億・市たばこ税 5.9億円
- ・ふるさと寄付金 5億2000万円
- ・地方消費税交付金 16億8000万円
- ・地方交付税 8億5000万円
- ・国庫支出金 42億5743万円

【歳出】
(主な事業)

- ・ふるさと応援寄附金事業 2億6651万円
- ・住宅用地検討調査事業 1000万円
- ・新庁舎整備事業 440億464万3千円
- ・保育士宿舍借上支援事業 675万円
- ・産後ケア事業 360万9千円
- ・子どもの医療費助成事業 3億円
- ・栖の宿キャンプ場改修事業 5000万円
- ・飯田・水屋線等道路改良事業 7900万円
- ・河川浚渫改良事業 1億1700万円
- ・地方バス路線事業 6357万8千円
- ・麓小学校トイレ改修事業 7870万円
- ・田代小学校大規模改造事業 6億2000万円
- ・放課後児童クラブ整備事業 1億956万円
- ・放課後児童健全育成事業 1億4029万6千円
- ・陸上競技場改修事業 (R4.5) 4億5000万円

令和4年3月定例会

一般会計補正予算 5億9778万5千円
令和3年度補正後 340億8686万4千円

【歳出】

- ・自治体DX推進事業 458万7千円
(引越しワンストップサービス)
- ・保育士等処遇改善事業 998万3千円
(月額9,000円の賃上げ)
- ・放課後児童支援員処遇改善 184万円
(月額9,000円の賃上げ)
- ・小中学校感染症対策事業 480万円
(新型コロナウイルス感染症対策)

《繰越明許費》

- 道路整備交付金事業 4億7016万円
- 道路舗装事業 8424万3千円
- 市民公園整備事業 1億7603万9千円
- 公園施設長寿命化事業 3361万円
- 市民文化会館改修事業 1億6861万7千円

より良い鳥栖に
わくわく宣言



発行者
西依義規
〒841-0005
鳥栖市弥生が丘
2-110-1
TEL.0942-84-8439
e-mail:
waku2sg@gmail.com

鳥栖市は、市制施行以来、人口が増加してきましたが、将来推計によると、2030年をピークに減少へ転じると予測されています。

近年、人口増加が鈍った要因としては、鳥栖市に住みたくても家を建てる土地がない、鳥栖市に就業場所となる企業を誘致したくても工場を建設できる土地がないなど、土地利用に関する問題が指摘されてきました。

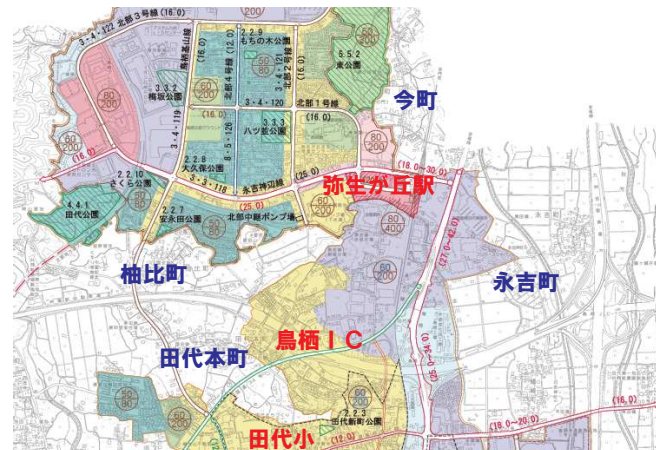
要因は、鳥栖市に、まち(都市計画区域)を優先的・計画的に市街化を進める「市街化区域」(下図の色エリア)と、市街化を抑える「市街化調整区域」(下図の白エリア)の2つに分ける区分区域「線引き」があることによると思われます(都市計画法第7条)

そのため、市街化調整区域内の既存集落等では、市街化区域と変わらず、道路や上下水道が整備されているものの、自由に家を建てられない等、土地利用に制限があり、若年層の流出や高齢化が進んでいます。

鳥栖市が更に発展するためには、「自由な土地利用」が重要な要素ではないかと考え、土地利用についての問題解決のための調査・研究を行い、今後の「都市計画のあり方」を検討していくことにしました。

都市計画のあり方検討会(議員有志)

市街化調整区域の開発規制の緩和を



鳥栖市都市計画図(弥生が丘・田代近辺)

- ◆検討テーマ
- 既存集落の持続的な維持と活性化(市街化調整区域の開発規制の緩和)
 - 1. 検討中の市街化調整区域における地区計画の運用基準について
 - 2. 鉄道駅・インターチェンジ(IC)・小学校周辺における基準緩和
 - 3. 50戸連たん制度への市の積極的な関与及び緩和について
 - 3. 区域区分(線引き)の見直し及び廃止について



神崎市日の隈公園のインクルーシブ遊具

【部長(答弁)】

■遊具広場につきましては、第一駐車場東側の緑地帯を造成し、幼児向け遊具や複合遊具を配置する計画となっております。令和5年度の完成を目指しているところであります。

ご質問のインクルーシブ遊具につきましては、障がいの有無にかかわらず共に一緒に楽しく遊ぶことを目的に作られた遊具であり、最近では、神崎市の日の隈公園内にインクルーシブ遊具の整備を行っているとのことと聞き及んでおります。

本市といたしましても、インクルーシブ遊具の視察や研究を行い、導入可能かどうかについて検討をしていきたいと考えております。

小学校3年生が入れない 鳥栖市放課後児童クラブの 施設整備と指導員不足の解消を

【西依(質問)】

■放課後児童クラブにおいて、令和4年度は、鳥栖小13名・鳥栖北小31名・麓小17名で計61名もの新3年生が利用できない状況だが、施設の借り上げや施設の新設など早急に対応すべきでは。(R5鳥栖北に施設の新設)またそれまでの対応策として、弥生が丘と旭に待機児童受入教室を開設し、タクシー等の移動費は市が負担し、保護者の負担を軽減してもらえないか。

【市長(答弁)】

■施設の問題、指導員の確保の問題などがあり、簡単に児童受け入れの増員ができる状況ではありません。年度ごとに入会希望者が想定しにくい状況ですので、施設の借上げも含め検討をしておりますが、施設及び設備、衛生管理及び安全対策及び学校からの距離などの課題もあり、大変苦慮しております。

本市としても、市教育委員会と一体となり第2期鳥栖市子ども子育て支援事業計画の目標に向けて努力すべきと考えております。

地域と共に子どもを育てる アフタースクール等の検討を

【西依(質問)】

■放課後児童クラブの待機児童を解消するために、子どもたちの放課後を有意義な時間にするために、学校施設を活用し地域と共に子どもを育てる「アフタースクール」(事例・太田市子どもプラッツなど)を取り入れてはどうか。

◆放課後児童クラブ「なかよし会」令和4年度 申請者状況 (R4.3.1聞き取り)

	申請者	面積 定員	通年 待機	長期 申請	待機	待機3年生	
						通年	長期
鳥栖	115	98	17	30	47	13	10
鳥栖北	132	90	42	16	58	31	4
田代	91	80	11	42	53	0	10
弥生が丘	83	166	-83	35	-48	0	0
若葉	63	76	-13	20	7	0	0
基里	54	46	8	20	28	0	7
麓	94	70	24	13	37	17	4
旭	93	117	-24	18	-6	0	0
計	725	743	-18	194	176	61	35



【部長(答弁)】

■ご提案のアフタースクールについては、実現可能なものか、待機児童解消につながる事業であるかなど、先進事例を調査したいと考えています。

○太田市子どもプラッツ

【対象】共働きや1人親などの就労世帯で日中に親が家にいない子

【事業主体】市の直営

【開設場所】小学校の空き教室など

【開設日・時間】終日となる夏冬春休みを除き、午後3時から5時45分、月・金曜の週5日(土日祝休み)

【指導内容】宿題の時間や遊びの場を提供。ときには遊び相手になることも。原則として勉強は教えない。

【スタッフの資格と報酬】資格は問わない有償ボランティア。時給840円

3月議会一般質問

鳥栖駅周辺整備の 早急な協議の再開を

【西依(質問)】
■JR九州との包括的連携協定は白紙なのか。
【市長(答弁)】
■平成29年10月にJR九州と締結した「鳥栖駅周辺整備」における鳥栖市と九州旅客鉄道株式会社との包括的連携協定につきましては、鳥栖駅周辺地区と鉄道との持続的発展に資するために締結したものであり、平成30年12月に鳥栖駅周辺整備事業は断念いたしました。協議自体は継続しているものと認識しております。
※総事業費を約80億円と試算していたが、設計の結果、124億円となり、財政上の理由で断念した。

目指す！鳥栖の未来 (橋本やすし公式サイトより)

【市長(答弁)】
■鳥栖駅周辺整備事業における東西連携の手法としては、鉄道高架事業も含めて検討した結果、多額の事業費負担や長期に渡る整備期間を考慮し、橋上駅がふさわしいと考えたところですので、事業主体がどうなるかに関わらず改めて鉄道高架事業を検討することは考えておりません。

都市開発基金残高 11億2472万円

【西依(質問)】
■本年度も都市開発基金に約1億円を積み立てようとしているが、基金額がいくらになったら開始できるのか。新庁舎、新産業集積エリア等どの事業の目途がたったら開始できるのか。
【市長(答弁)】
■財政上の理由で断念したことを踏まえ、事業再開に向けた可能な取り組みとして都市開発基金への積み立てを行っているところでございます。



鳥栖駅西側の整備イメージ (H30.12)

平成30年度時点での懸案事項でございました。防災拠点として整備しております新庁舎整備事業につきましては、令和5年度の供用開始を目指し工事が進捗している状況ではありますものの、同時期に、小中学校の老朽化に伴う大規模改造事業や味坂スマートIC(仮称)の関連道路整備などの道路事業、国スポ・全障スポ施設整備事業なども実施してきています。
こうした状況を勘案しつつ鳥栖駅周辺整備事業の実施については判断していく必要があると考えております。鳥栖駅周辺整備事業の具体的な再開時期につきましては申し上げられませんが、大型事業の目途や資金需要のピークをどう抑えていけるかなど、課題解決に向けて、鋭意努力してまいります。

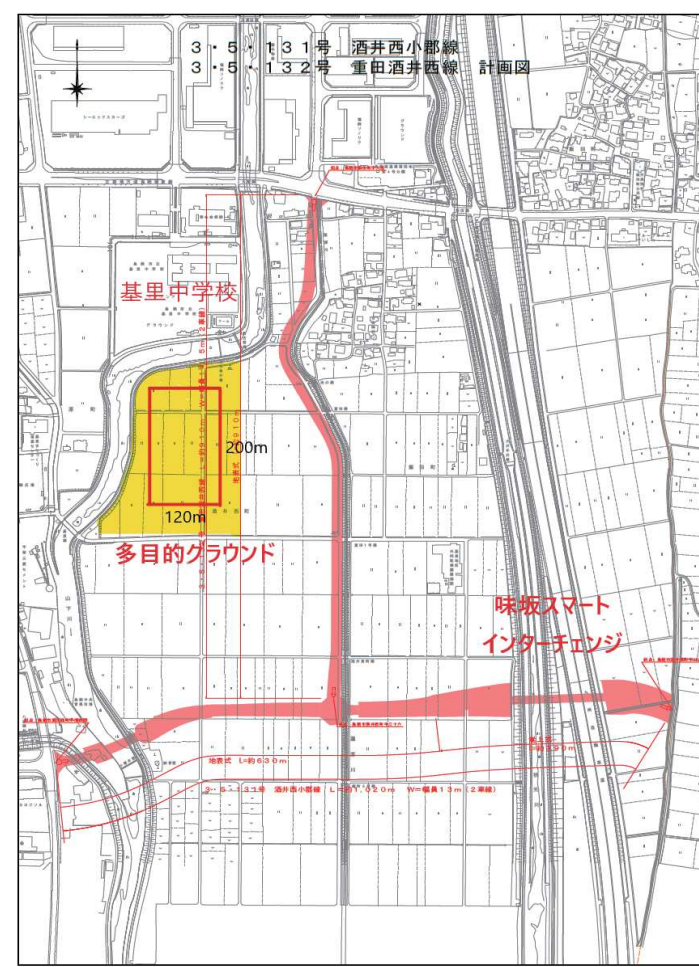
健康スポーツセンターは 事業手法の見直しを

【西依(質問)】
■健康スポーツセンターと鳥栖駅周辺整備の優先順位はどちらが高いのか。本当に、任期中に着工できるのか。事業手法を見直し、再検討してはどうか。
【市長(答弁)】
■健康スポーツセンターの整備につきましては、平成28年6月に実施設計が完了しておりますが(総事業費約18億円)、大規模災害時の防災拠点となる庁舎の建設を優先させるため、建設時期を延期したところでございます。
また、建設予定場所に隣接します市民球場及び市民体育館において、令和6年に国スポ・全障スポが開催されることから、着工時期につきましては、大会の開催後の適切な時期を検討してまいりたいと考えております。



味坂SIC開発地区に 多目的グラウンドの整備を

【西依(質問)】
■平成30年度に策定を行った鳥栖市土地利用構想では、味坂スマートIC(仮称)周辺の開発予定地区100haに対し、3haの公園と4.5haの調整池を想定している。であれば、開発予定地区の川沿い(基里中学校南側・左図黄色)に公園または調整池の役割を持ち、更に工業地区と住宅地区の緩衝地としての多目的グラウンドを整備してはどうか。
【市長(答弁)】
■味坂スマートIC(仮称)につきましては、現在、整備が進められており、周辺の開発につきましても、鳥栖市土地利用構想を踏まえ、今後、具体的な検討を進める必要があるものと考えております。
議員ご提案の味坂スマートIC(仮称)周辺のグラウンド整備につきましては、具体的な検討を進めるうえで、重要な視点であるものと認識いたしております。
今後、庁内において、実現の可能性について検討して参りたいと考えております。



一般質問で提案したグラウンド整備地(私案)

インクルーシブ 教育環境の充実を

【西依(質問)】
■共に学び成長する子ども条例(議員提案条例)4条3項の「教育環境における合理的配慮」は、子ども・保護者の意向を尊重するものになっているのか。
【教育長(答弁)】
■鳥栖市は、条例に則り、全ての子どもたちが共に学び成長できる体制づくりに向けて、各学校で様々な合理的配慮について、取組を行っております。施設・設備等のハード面にしましては、
・車いす等を使用できるスロープやエレベーターの設置
・階段昇降車の配備
・電子黒板整備や一人一台のICT端末の配置
・個別学習や情緒安定のためのスペースや教室の確保
また、人的な支援といたしましても、障害の状態に応じた専門性を有する教員、日常生活の介助及び安全面を支援する人材等を配置いたしております。

市民公園の遊具広場に インクルーシブ遊具を

【西依(質問)】
■小学校にインクルーシブ遊具を設置する予算が上がっているが、市民公園に整備予定の遊具広場にも設置してはどうか。
【市長(答弁)】
■市民公園に整備予定の遊具広場にも設置してはどうか。